

令和 7 年 3 月 2 4 日

東伊豆町議会議長 笠井 政明 様

文教厚生常任委員会
委員長 西塚 孝男

文教厚生常任委員会調査報告書

本委員会に付託された調査事件について、調査の結果を別紙のとおり、会議規則第 7 7 条の規定により報告します。

別 紙

1 所管事務調査事項と調査期間

(1) 調査事項 高齢者福祉について

(2) 調査期間 令和6年第2回定例会から令和7年第1回定例会まで

2 町内の高齢者の現状

・65歳以上 5,239人(高齢化率 47.0%)

・75歳以上 3,207人(後期高齢化比率 28.8%)

※人口 11,141人

世帯数 6,349世帯(令和6年11月30日現在)

・高齢者の独居者数及び高齢者のみ世帯数

ひとり暮らし世帯 1,624世帯

夫婦のみ世帯 929世帯

子らとの同居世帯 1,149世帯

また、ひとり暮らし世帯と夫婦のみ世帯は年々増加している。

(東伊豆町地域福祉計画：令和3年3月)

・お達者度 男女ともに県下最低水準にある。

	男 性	女 性
東伊豆町	73.8歳	81.7歳
県最高	81.8歳	86.5歳
県平均	80.1歳	84.3歳

※日常生活動作が自立している期間の平均を「平均自立期間(=お達者年齢)」という。(静岡県令和4年「お達者年齢」状況)

3 高齢者福祉事業の把握について

高齢者福祉を担う住民福祉課、健康づくり課（地域包括支援センターを含む）から事業の説明を受けた。（令和５年度実績）

（１）住民福祉課

○在宅高齢者福祉推進事業

・高齢者等配食サービス事業

１１，８３８食

・生きがい活動支援通所事業

デイサービス １４７回 ２，２０１人 １回あたり約１５人

趣味活動 １６４回 ２，４２１人 １回あたり約１４．８人

・緊急通報システム機器使用

○養護老人ホーム施設入所事業 計５名

○いきいきセンター維持管理

（２）健康づくり課

○健康増進事業

・熱川健康いきいきクラブ 実施回数２０回 参加人数２１人

・稲取健康いきいきクラブ 実施回数２０回 参加人数２１人

・コアトレ&セルフ教室 実施回数３６回 参加人数２７人

・北川オリジナルフィットネス 実施回数２１回 参加人数１６人

・食事指導 訪問件数１３人

・その他 サロン出前健康教室 実施回数１３回 参加人数１２０人

ウォーキングツアー 参加人数７１人

筋力アップトレーニング いきいきンター参加人数１０人

保健センター 参加人数１２人

※自立体力測定による運動機能評価(同一対象者)比較

総合得点 上がった者２２％ 現状維持６４％ 低下した者１４％

平均体力年齢と平均実年齢の比較では、前年度－3歳　－3.6歳
 予防の食事指導では、低栄養の疑いのある7点以下が28%から10%低下した。

○特定健康診査等事業

・特定健康診査

対象者	受診者	受診率
2,398 人	1,007 人	42.0%

・特定保健指導

	対象者	面接実施者	受診率
動機づけ支援	105 人	23 人	24.8%
積極的支援	43 人	20 人	46.5%

○後期高齢者医療特別会計

	令和5年度	令和4年度	前年度対比
後期高齢者医療事務事業	200,351,627 円	188,932,014 円	11,419,613 円

○介護保険会計

要支援・要介護合計　　787人

・居宅介護サービス

	令和5年度	令和4年度	前年度対比
訪問サービス	5,053 件	4,654 件	399 件
通所サービス	2,224 件	2,037 件	187 件
短期入所サービス	585 件	563 件	22 件
福祉用具貸与	2,352 件	2,287 件	65 件

特定施設入居サービス	671 件	702 件	△31 件
------------	-------	-------	-------

・地域密着型介護サービス

	令和 5 年度	令和 4 年度	前年度対比
訪問サービス	12 件	12 件	0
通所サービス	982 件	1,022 件	△40 件
共同生活サービス	219 件	214 件	5 件
小規模多機能型サービス	226 件	258 件	△30 件

・施設介護サービス

	令和 5 年度	令和 4 年度	前年度対比
介護老人福祉施設	785 件	772 件	13 件
介護老人保健施設	407 件	433 件	△26 件
介護医療院	16 件	31 件	△15 件

・特定入所者に対する介護サービス

	令和 5 年度	令和 4 年度	前年度対比
食 費	919 件	960 件	△41 件
居 住 費	923 件	965 件	△42 件

・介護予防・生活支援サービス

	令和 5 年度	令和 4 年度	前年度対比
訪問型サービス	320 件	352 件	△32 件
通所型サービス	411 件	498 件	△87 件
高額医療合算サービス	2 件	0	2 件
訪問型サービス◎	5 件	0	5 件

・包括的支援事業

	令和５年度	令和４年度	前年度対比
包括的支援事業費	29,342,580 円	29,210,709 円	113,871 円

総合相談支援 2, 0 5 4 件

権利擁護 問合せ 5 3 0 件 2 4 8 人

包括的ケア 1 2 7 件 2 7 9 人

・生活支援体制整備事業（社会福祉協議会へ業務委託）

	登録会員	協力会員	移動支援	生活支援
令和５年度	73 人	13 人	227 件	25 件

（３）高齢者福祉事業に対する評価・課題

- ・健康づくり事業は、一定の成果を上げているが、対象者に対して事業規模が小さく、町民全体への広がりを欠いている。
- ・介護保険では、施設介護が少なく在宅での介護サービスの割合が多い。
- ・包括的支援事業においては、総合相談、権利擁護の問い合わせ・対応など非常に多い。
- ・町の福祉施策はそれなりに整備されているが、利用は少ない。福祉施策が町民に浸透していない。

４ 参考人からの意見聴取について

高齢者の生活状況や介護の現場からの意見について、５名の参考人に伺った。

○質問事項

- ・現場から見えてくる高齢者の実情について
- ・福祉・介護事業（事業所を含む）の課題について
- ・その他（高齢者等に係る課題全般）

(1) 参考人の意見の概要（要約は委員会）

○鈴木和美氏（こころ介護）

- ・地域包括ケアシステムの構築に向けて動いており、介護予防や高齢者生活支援など老人クラブ自治会、ボランティアなどの協力が必要だが協力が得られるか懸念される。
- ・働き手不足が一番の問題。募集しても来ないため、外国人の採用を進めている。民間に任せておけば良いという事ではない。

○稲葉育代氏（さくら介護）

- ・リゾートマンションや別荘地では、住宅購入時に介護サービスが付いていると誤解し、貯金を費やしてしまい介護等の費用に困る人がいる。また、住宅を購入した事によりその処分に困っているという現実がある。
- ・多くの方が周りとの交流を嫌って孤立した生活を送っており、人の介入が必要になっても嫌がる。このことによりごみ屋敷や孤独死が起きている。
- ・マンションでは、入浴介助が必要な状況や認知症状により管理組合との軋轢が生じ、退去というような問題が起きている。
- ・アパートに長く住んでいても入居者の親族までは把握されていない。入居中に部屋で倒れているなどの事態が起きると大変な苦勞を要する。
- ・町内に認知症を専門に診られる医師（脳神経外科）がない。

○飯田清久氏（ライフケアガーデン熱川）

- ・町は成年後見制度を積極的に取り扱っている。ケアマネとしても利用者としても安心できること。今後も必要な方に申し立ての支援をしていただきたい。
- ・独り暮らしで身寄りもなく、さらに経済的に困窮している方がいる。生活保護の対象にならないぎりぎりの収入で生活し、大変厳しい状態である。自身の努力や地域の対応も必要だと思うが、既存のサービスに町と

して上乗せなどがあると自分らしい生活を送れる。

- ・「老々介護」「認認介護」では介護サービスを使いながら在宅で生活されている方が多いが、1人で入院した場合は認知症状が進み、介護サービスの不足から在宅が厳しく、施設への入所を考えざるを得ない。
- ・働いている世代の介護の負担を感じる。親が介護状態になって介護サービスに頼れるときはいいが、夜7時から朝5時・6時までの時間は、現状において当町ではサービスが入れない。夜に何回もトイレに起こされても、翌朝は仕事に行くなど家族の負担が大きい。
- ・デイサービス5件、福祉用具1件、訪問看護1件が撤退されている。数か月間見てもケアマネやデイサービスの稼働が落ちている事で経営は厳しく、営業人員が欠ける所も少なくない。
- ・成年後見人制度利用前に社協の日常生活自立支援事業などを充実させていくとともに、市民後見人の育成など係わる人を増やすことがポイントである。
- ・新しい人を入れても教育する余裕がない。新しい人に教育・指導をしているとその部分が他の職員の負担となり、離職に繋がっている。

○鳥澤美穂氏（湯ヶ岡の郷）

- ・施設では加療や延命を希望される方は少なく、看取り看護が行われ終の住み処になっている。療養型の病院等の受入れもあり、訪問診療や訪問看護も充実し、在宅看取りになる方も増えている。
- ・老々介護が多くなり、介護者が病気になると在宅生活が難しくなる利用者が多い。車の運転ができなくなると買い物に困る。タクシーなどを利用したくても台数が減ってなかなか利用できない状況がある。
- ・独居や老々介護が増えており、病院受診も家族が対応できず、認知症があつたりしてケアマネが付き添わなければならないケースもある。
- ・マンパワーの不足は深刻で利用者のペースに合わせたサービスの提供が

なかなか難しい。丁寧なゆとりの介護よりも能率と効率を重視せざるを得ない状況で、本来の福祉や介護が置き去りになってしまっている事を現場で感じている。

- ・経営上、資格要件や看護師・管理栄養士等が必要で、確保できれば加算が取れたりするが、募集しても応募がない。お客さんや職員の取り合いになっているのかと感じている。希望のデイサービスに行けない方もいる。
- ・ヘルパーが不足しているのでお断りする場合もあり、デイサービスを利用したくても要支援・介護の軽い方は待機期間が長くなったりする。

○佐島和樹氏（小規模多機能ホームあたがわ）

- ・町で認知症の普及啓発活動をしてきた。認知症に優しい町づくりというものを目指してどんな町なのか考えてきた。徘徊するお年寄りがいると行政と町民の連携が良くとれていて、町民や民生委員から「気になる方がいる」と報告が入りすぐ介入してくれる。2～3回続くと町での生活は厳しいのではないかという通達が来る。ケアマネはどんな場合も施設入所に対応するが、町に十分な施設があるわけでもなく、緊急の場合は入れる所がどんどん遠くなっている。認知症に優しい町とはどういう町か考えさせられる。
- ・人員が非常に難しくなっている。毎回求人を出しても年に数件の応募しかない。ハローワークとも連携を取り、合同説明会を開いても来てくれるのは、2～3人程度である。
- ・人手不足は止まらないと思っている。施設では基準が決められており、これが守れなくなると減算となり報酬がカットされる。カットされれば職員の給料が払えなくなり、事業が継続できなくなって閉めざる得なくなるギリギリ状況が起きてくる。施設では「人が足りないから帰ってください」とか「部屋でじっとしていてください」というわけにはいかない。

- ・今年度から介護職員の研修費用の2分の1を補助する事業が始まり事業所内では好感を得ていますが、人手が足りない今は、介護で働いていない人の掘り起こしの方が有効で、どうするのかは民間だけでなく（町にも）考えて貰いたい。
- ・人口は減っていくが高齢者の数は変わらないまま進んで行く。少ないマンパワーで多くの高齢者を見るのか。特区やICT化などこの町に合わせた介護の仕組み、考え方を官民が協力しながら考えておいても良いのかと思う。

（2）参考人の意見により把握できた課題

- ・町の特有の独居や老々介護が増加しており、生活の状況はテレビ・新聞で報道されている事案に勝るとも劣らない厳しい生活状況である。
- ・介護の人材不足は、既に介護サービスの切り捨てを生んでいる。今後も後期高齢者・介護認定者が増える状況にあり、人材不足の事態が改善されなければ介護事業の縮小・閉鎖により「介護保険」が崩壊し、町民は介護・福祉から置き去りにされ、安心できる老後は実現できない。
- ・日常生活自立支援事業や「支え合う東伊豆」の取り組みは不十分である。健康な高齢者と施設介護を受ける高齢者の間には、在宅で暮らしている大勢の高齢者がいる。こうした高齢者は生活をサポートする施策・体制がなければ、町で安心して暮らしていけない。

5 研修について

（1）東村山市 高齢者福祉について

横須賀市 終活センターについて

※全国から視察希望が殺到しているため、資料の送付を依頼した。

（2）東村山市の取り組みから学ぶこと

- ・健康づくり事業における行政の視点の違い

町の健康づくり事業では「自分の健康は自分で守る」ことが強調され健康を守ることは自己責任として進められてきたと考えられ、健康増進事業を計画し、それに応募するやる気のある方を対象とした事業を実施してきた。

東村山市も20年前までは「自分の健康は自分で守る」であったが、近年は「健康づくりは市民みんなの課題」として、市が市民を支えサポートしていくという方向に転換された。

- ・市民参加の取り組み

東村山市では保健師5人体制で、13町219人に保健推進員の委嘱がされており、保健推進員に「保健推進員養成講座」「合同研修会」「体成分分析測定」等に参加させることで、自身や家族、地域の健康づくりに役立つ、「地域の健康博士」として育成している。

また、保健推進員は「楽しめる地域での健康づくり」を推進し、講習会等の集まりを通じて地域の交流を促進しており、市の健康づくり活動においても、保健推進員会の協力のもと行っているが、体力づくり推進委員、福祉協力員とも連携を図っている。

6 行政の取り組みに対する提言

提言1 高齢者福祉を支えている現場の声を町長は聞くべきである。

ケアマネジャーから聞いた現場の状況は、我々の想像をはるかに超えた厳しい状況であった。

町長は、総合指針に基づくまちづくりを進めるために、町の福祉事業と福祉・介護の現場の方から高齢者の現状をしっかりと聞くべきである。

提言2 「自分の健康は自分で守る」から「健康づくりは町民みんなの課題」

町では、これまで「自分の健康は自分で守る」をスローガンにしてきたが、自己責任で健康になろうでは町の役割が曖昧である。

東村山市のように「健康づくりは町民みんなの課題」と位置づけ、町の役割・町民の役割を明確にして取り組むことで、事業を町民に広げることができる。健康事業の位置づけや視点を抜本的に見直すことが必要である。

提言 3 上乗せ横出しの介護サービスで介護施策・体制の充実を

介護報酬は国の課題であるが、介護保険により高齢者の生活を守る環境を整備することは、介護保険事業者である町の責任でもある。

介護施設が少ない当町は、介護保険料の基準額は県下一低い状況であるが介護保険料が低額でも介護サービスが受けられない状況が生じている。

高齢者が人間として老いていくことができるように、苦勞して納めてきた介護保険料が生かされる介護体制を整備することが町の喫緊の課題である。

「介護保険料を低額に抑える」を重視した運営を見直し、介護保険料に配慮しつつも、介護サービスを必要な方が必要なサービスを受けられるように、訪問介護支援による上乗せや地域包括支援センターの拡充、地域支援事業拡充など横出しによる介護施策・体制の充実を求める。

提言 4 地域包括センターの抜本的な拡充強化を求める。

町の独居老人及び高齢者夫婦世帯が 2, 5 5 3 世帯と世帯数の 4 2. 2 % を占めている中で、地域包括センターは相談の窓口として大きな役割を果たし続けている。下記の取り組みを進めるために地域包括センターの抜本的な強化を求める。

多くの独居老人や高齢者夫婦に対応するために、これまでの成年後見人制度や「終活ノート」の活用をさらに進め、司法書士、行政書士、市民後見人などで構成する「終活センター」（仮称）の設置など、終活を目的にサポート体制を整備されたい。

また、孤立する高齢者が生まれないように、これまで地域包括センター係

と健康増進係が連携して取り組んできた各地区や別荘、マンション等への出向き、高齢者と町とをつなげる取り組みを重視し拡大されたい。

提言5 「支え合う東伊豆事業」など福祉関連事業の充実を求める

歳を重ねて不便になるのは「買い物」だけではない。「ごみを出すこと」「料理をすること」「病院に行くこと」「銀行に行くこと」など、生きることのすべての場面で手助けが必要となってくる。

町には様々なサービスを提供する制度はあるが、マンパワー不足などから限られたサービスの提供に留まっている。

高齢者が人口の半数に近づいている事を考えると、ヘルパーなどの人材確保と共に、高齢者の支援サポートに係わる町民を増やしていくことが極めて重要であり必要である。

独居や高齢者世帯が多いことから、相談の窓口となる民生委員や地域包括支援センターと福祉サービスの利用援助、日常的金銭管理サービスなどを担う「日常生活自立支援事業」の連携と充実が必要である。

提言6 事業の存続すら危うい介護事業所の経営への支援を

介護事業所は、慢性的な人材不足と介護報酬の切り下げの中で、将来に向けた事業の存続が大変厳しい状況にある。事業所の運営基準等に弾力的な運営・運用ができるものがないか、制度を精査して対応されたい。

町は介護人材育成支援事業補助金を支給しているが、人材確保が大きな課題となっていることから、さらに介護事業者に呼びかけて、介護の人材確保等について連絡・協議する場を早急に設け、連携して取り組まれない。

提言7 高齢者への広報のあり方の検討を

福祉施設の利用でも老人クラブ連合会理事会でも、本来伝わってほしい方々に関心ある話題や情報が届いていない状況を実感した。(資料1参照)

町の広報は、ホームページやLINE、回覧版により周知されているが、読まれる情報が共有されているかなどの検証が必要である。情報の共有化は

町だけの問題ではないが、町と町民のつながりが薄まれば町づくり土台を失うことになる。

資料 1 老人クラブ連合会理事会との意見交換会資料

資料 2 横須賀市終活センター関係資料

資料 1

老人クラブ連合会理事会の意見交換会

委員会は、12月2日に老人クラブ連合会理事会と懇談した。委員会では、高齢者の生活の状況をいろいろ聞きたく訪問したのですが、これからの町を良くしたいと言う声をたくさん聞いた。

大半は議会でも一般質問で取り上げられた問題であったので、答弁の範囲で分かる事には説明をした。

- 町民の声 1 白田川橋の架け替えをお願いしたい。架け替えがダメなら、歩道としてでも残せないか。
- 町民の声 2 町道湯ヶ岡赤川線に支障木や雑草があり走行しにくい。
- 町民の声 3 文化公園に避難階段を設置してほしい。
- 町民の声 4 「町民の声」を投稿しても、どこの課が対応するのか決まっておらず、長く放置されている。
- 町民の声 5 「ノッカル」駐車場まで行くのが大変。何とかしてほしい。
大川まで行きたい。
- 町民の声 6 東区後小路地域に避難する場所を作してほしい。
- 町民の声 7 救急体制で休祝日に当番医がいなくて心配。
- 町民の声 8 温泉施設を作してほしい。